プラン概要書（様式第２号）

プラン名:誰もが楽しめるインクルーシブなクライミング型交流事業　　**グループ名：越前Dinoモンキー**

プランの内容

【地域課題】
福井県内には視覚障がいのある方が日常的に安心して通える運動・交流の場やノウハウが乏しく、孤立や外出機会の減少が課題となっています。また、地域住民と障がいのある方が直接関わる機会も少なく、「支援する側・支援される側」という固定観念による壁（心のバリア）が存在しています。

【プラン目的】
県内初となる「視覚障がいのある方と地域住民が共に対等に楽しむクライミング交流モデル」を定着させます。「言葉のガイド」を通じて、障がいの有無を超えた対等な信頼関係を育み、障がいのある方の孤立防止と地域での新しい居場所づくりを目指します。

【プラン概要】
任意団体「越前 Dino モンキー」が主体となり、福井市のクライミングジム「ロックスケイプ」にて定期交流会を開催します（年間延べ120名規模）NPO法人モンキーマジックと連携した安全・ガイド講習のもと、SNS発信などを交えて幅広く周知を行います。

【持続性】
初年度は支援金（20万円）等を活用して運営基盤を確立し、2年目以降は参加費収入の定着、民間福祉助成金を組み合わせて行政支援に頼らない自走化を図ります。

１年目事業予算

１年目の収支を記載すること
※２年目以降を含む収支の詳細については、
企画提案書に記載すること。

収入

項目	金額
支援金	200,000
合　計	200,000

支出

項目	金額
会場使用料	66,000
視覚障がい者サポート費	120,000
事務用品	14,000
合　計	200,000

想定する事業効果※プラン完了後に実績を更新するものとする

【定量的な効果】
年間延べ参加者数120名以上（各回10名×12回）
視覚障がい者の継続参加率60%以上
初参加者の再参加率50%以上
参加者満足度80%以上を達成します。

【定性的な効果】
視覚障がい者の外出意欲向上と地域での仲間づくりを実現します。
また、言葉でサポートする体験を通して、地域住民に実践的なバリアフリー意識が育ち、小中高生や大学生などの若い世代が楽しく参画することで、将来の地域福祉を支える担い手の育成につながります。

プラン概要書（様式第２号）

プラン名:スイーツレボリューション～スイレボ～　　グループ名：放課後スイーツ部

プランの内容

【地域課題】

日本では約500人に1人が小麦アレルギーを抱えており、食べられる食品が限られる人も少なくない。実際に学校の先輩からも食べられる食品が限られ苦しんでいた実体験を聞いた。年齢や体質、食の制限の違いによって、「同じお菓子を一緒に食べて楽しむ」という当たり前の時間を共有できない場面がある。高校生が企画・主催し、実際にグルテンフリーのスイーツの製作・提供を通して世代間交流をするイベントは、福井県では実施されていない。
私たちは「誰もが安心して同じお菓子を囲み、世代を超えて交流できる機会が少ないこと」を地域課題と捉えた。

【プラン目的】

アレルギーの有無や年齢に関係なく、誰もが同じお菓子を楽しめる環境をつくることを目的とする。そのために、グルテンフリーをコンセプトとし、小麦アレルギーにも配慮した高齢者や幼児を含む幅広い世代が食べやすいお菓子を開発する。高齢者施設への提供や地域イベントでの販売を通して、世代間交流や地域のつながりを生み出し、「食」を通じた地域課題の解決を目指す。

【プラン概要】

未経験の高校生が主体となり、福井県産の米粉を使用したグルテンフリーのお菓子を開発し、高齢者、小麦アレルギーの方、健康志向の若者など、さまざまな人が安心して同じお菓子を楽しめるブランド「スイレボ」を展開する。福祉施設への提供や地域イベントでの販売を通じて、世代や体質を超えて「一緒に食べる喜び」を届けることを目指す。

【持続性】

福井県産の米粉を活用することで地域産業の活性化につながり、地元企業や福祉施設、地域イベントと連携して継続的に販売できる仕組みをつくる。
運営面では学校の利点を活かし、来年は後輩や同級生も巻き込み、運営側の規模を広げる。いずれはこの取り組みを後輩へ引継ぎ、地域イベントや施設での販売・世代間交流を学校の伝統的なプロジェクトにすることで2期生の私たちが卒業しても持続可能なものとする。

１年目事業予算

１年目の収支を記載すること
※２年目以降を含む収支の詳細については、企画提案書に記載すること。

収入

項目	金額
支援金	200,000
イベント収益	50,000
合　計	250,000

支出

項目	金額
材料費	120,000
包装資材	30,000
キッチン代	40,000
衛生用品	10,000
予備費	50,000
合　計	250,000

想定する事業効果※プラン完了後に実績を更新するものとする

【定量的な効果】

学校のプロジェクト活動を活用し、福井県内の地域イベントやコミュニティスペースへの出店(現在１件相談中)、福祉施設３軒以上(現在１軒相談中)との連携を実現し、福井県内で継続的な販売・提供体制を構築することで世代を超えた繋がりを作る。

【定性的な効果】

福井県産米粉を活用したグルテンフリーのお菓子を通して、年齢やアレルギーの有無に関係なく誰もが安心して同じおやつを楽しめる交流できる場を福井県で作ることが出来る。
福祉施設や地域イベントでの販売、提供を継続することで地域のつながりを深め「食」を通して、福井県産米粉の魅力を発信するとともに、地域課題の解決と地域活性化に貢献する。

プラン概要書（様式第２号）

プラン名:越前海岸を釣りの聖地へ

グループ名：宮下翼

プランの内容

【地域課題】
越前海岸には、美しい景観や豊かな水産資源、地魚料理、旅館・民宿など、多くの地域資源があります。しかし、観光や地域資源の活用は越前ガニ漁の解禁期間（11月～3月）に集中しており、それ以外の時期の観光客や関係人口の確保が課題となっています。
また、釣り人のマナー違反やゴミのポイ捨て、違法駐車、事故などにより、釣り禁止となる漁港も増加しています。さらに、子どもが釣りを始める機会も減少しており、魚や海、水産業への関心が薄れることも懸念されています。

【プラン目的】
本プランでは、越前海岸で釣り大会「Echizen Fishing Tournament（EFT）」を開催し、釣りを通じて県内外から人を呼び込み、関係人口の拡大と地域経済の活性化を目指します。
また、釣りマナーや安全意識の啓発、海岸清掃などを通じて、環境保全と持続可能な釣り環境づくりに取り組みます。さらに、釣り体験や地域住民との交流を通じて、子どもから大人までが魚や海、水産業に興味を持つきっかけをつくります。

【プラン概要】
本プランでは、秋のアオリイカシーズンに越前海岸でエギング大会「Echizen Fishing Tournament（EFT）」を開催します。自身のYouTubeチャンネル「海洋学部の釣り日記」を活用し、越前海岸の魅力発信や大会の集客、釣りマナーの啓発を行います。
また、釣り大会や交流を通じて釣り人同士のつながりを深めるとともに、地元事業者との連携や協賛を通じて、越前の特産品や地域の魅力を広く発信します。これらの取り組みにより、釣り人が継続的に越前海岸を訪れるきっかけをつくり、地域とのつながりや関係人口の拡大を目指します

【持続性】
本プランは、一度限りのイベントではなく、毎年継続して開催することを目指します。運営資金は参加費や企業協賛、チャレンジプランコンテストの支援金などで確保し、継続的に運営できる体制を構築します。また、大会の様子や越前海岸の魅力をSNSやYouTubeで継続的に発信し、認知度の向上とリピーターの獲得につなげます。将来的には、アジングやファミリーフィッシングなどにも展開し、幅広い世代が楽しめるイベントへと発展させることで、「越前海岸を釣りの聖地へ」という目標の実現を目指します。

１年目事業予算

収入

項目	金額
支援金	200,000円
大会参加費（1,000円×50名）	50,000円
YouTube収益（1か月分）	20,000円
合　計	270,000円

支出

項目	金額
大会開催保険料	30,000円
大会用の旗・会場装飾	20,000円
YouTube撮影機材	30,000円
チラシ・ポスター印刷費	10,000円
イカ計測用品	10,000円
清掃用品	5,000円
救急用品	5,000円
スタッフ交通費	15,000円
賞品・景品	50,000円
トロフィー・メダル・賞状	25,000円
その他備品・予備費	20,000円
その他運営費	50,000円
合　計	270,000円

※金額は概算。大会保険料・備品等は見積もりにより調整。

想定する事業効果※プラン完了後に実績を更新するものとする

【定量的な効果】
本プランでは、エギング大会を開催し、県内外から釣り人を呼び込むことで、交流人口・関係人口の拡大を目指します。初年度は50～100名の参加を目標とし、継続開催による来訪者の増加を図ります。
また、宿泊施設や飲食店などの利用促進、地元特産品のPRを通じて地域経済の活性化につなげます。さらに、YouTubeやSNSで越前海岸の魅力を発信するとともに、釣りマナーの啓発や海岸清掃、参加者同士の交流を通じて、釣り環境の保全と地域とのつながりを深めます。

【定性的な効果】
本プランでは、釣り人同士や漁師、地域住民との交流を通じて、地域への理解や愛着を深めます。また、釣りマナーの啓発や安全対策、海岸清掃により、釣り環境の保全を目指します。
さらに、釣り体験やYouTube・SNSでの情報発信を通じて、魚や海への関心を高め、越前海岸の魅力を広く発信することで、地域ブランドの向上と継続的な来訪につなげます。

プラン概要書

プラン名:「ぷにっこマンモ」で触診体験 ～乳がん早期発見のために～

グループ名：
大野高校 Teamまんもす

プランの内容

【地域課題】

1998年から日本人女性の部位別がん最多を記録し、現在も増え続けている「乳がん」。現在では８人に1人が罹患しており、私たちの属するAYA世代にも「若年性乳がん」の罹患が増えている。男性乳がんもある。 私たちのまち福井県大野市は、市内の病院で乳がん検診ができず、女性の医療アクセスに制限がある。メンバーの中には家族が婦人科系のがんに罹患したことがある者もおり、顧問の先生は「ピンクリボン・アドバイザー（乳がん講師）」として活動している。

私たちは、2023年、若い世代も含み誰もが気軽に触診体験ができ、乳がんについて学ぶことができる「シン・触診体験モデル『ぷにっこマンモ』」を開発した。福井県・北陸から全国への普及を目指している。乳がん啓発ツールとして広め「セルフチェックで健康長寿」を目指している。

【プラン目的】

現在普及している「乳がん触診体験用モデル」は、公共の場所に設置され、見た目が非常にリアルな乳房型であることで「触るのが恥ずかしい・触診体験しづらい」という短所がある。また、乳がんの急速な罹患増加に対して若者のがん教育も不十分である。罹患者の命を守るために早期発見・早期治療を目指すためにできることはないか探究した。このモデルを活用し、福井の若者に「ブレストアウェアネス（日常で自己触診をルーティンにする）」を広め、がん教育の一助となりたい。

【プラン概要】

現在、病院や保険の相談窓口で体験に使われている「リアルな乳房の色や形の触診モデル」は若者や男性にとっては「触ってみる」という心理的ハードルが高い。デザインを抽象化し個人で安く買える「ゆるく、かわいい」モデルに置き換えてはどうか、と、ぷにっこマンモを考案した。誰もが気軽に触診体験ができ、北陸発の先進的な健康策となる。早期発見で乳がんで悲しむ人を減らし、安心して暮らせる社会にしたい。

【持続性】

石川県の企業・団体(医療装具製造)と商品化を目指し協働中。

１年目事業予算

収入

支援金：　20万円
ピンクリボン・アワード2026
活動助成金：　2万円

支出

鋳型・材料：10万円
商標申請：　６万円
イベント資材：2万円
販売・管理：　4万円

合計　２２万円



デザイン画

試作品①



想定する事業効果※プラン完了後に実績を更新するものとする

【定量的な効果】「乳房健康研究会」に開発中のモデルを監修いただき、試作品を作成。7月に「ピンクリボン・アワード2026」を受賞した。ピンクリボンの会からも注目され、10、11月で福井県、神奈川県の4つの健康イベントに出展予定である。将来的に公費または団体による補助により、「小学生へ贈られる防犯ブザー」のように福井県の高校入学生または中学卒業生の女子中心に配布できたらと考えている。

【定性的な効果】 医療者の「触診体験をしてほしい」と、若者の「恥ずかしくてモデルを触れない」のギャップを解決する「触ってみたいモデル」が登場。若い世代から自己触診やパートナーによる触診が日常化すると、皆が健康寿命を意識した生活ができる。広く普及させ、啓発していきたい。

プラン概要書（様式第２号）

プラン名:「和とジャズ交遊録」

グループ名：ふくいスイング倶楽部

プランの内容

【地域課題】

本格的な文化芸術に触れる機会の地域格差は大きい。ここ坂井市も取り残されそうな地域である。この地域の人たちは都市部まで足を運ぶ必要があったり、高齢者や子どもは移動が難しく鑑賞機会が限られている。また、本格的なジャズをはじめ生演奏に触れる経験が少ない。音楽文化を継承する機会が減少しているといえる。

【プラン目的】

プロのジャズ演奏家のコンサートを身近な施設「いねす」で開催することで、地域の方々に本格的なジャズを堪能していただく。初心者体験型のワークショップをして、幅広い世代に気軽に楽器に親しんでもらいたい。また、地元の学生を巻き込み一緒に盛り上げた感のでるコンサートにしたい。

【プラン概要】

東京から帰福したジャズピアニスト高浜和英とフルートと篠笛で独創的な和ジャズの世界を発信する笛吹かなによるここでしか味わえない和洋折衷のブレンドジャズのコンサートを開催する。地元の三味線教室の小学生も参加してテイストを盛り上げる。前日には、気軽に楽器に触れられる体験コーナーとレベルアップのためのフルートと篠笛のワークショップも行いコンサートへのを興味と期待を持ってもらう。

【持続性】

コンサートをするには、PRが不可欠であるが、広く周知してもらうには、かなり宣伝費がかかる。採択金は、チラシ等の広告費にあてたい。継続していくためには赤字を出さないことと地域を巻き込み次年度の活動の原動力にしたい。

１年目事業予算

事業予算

収入

項目	金額
入場料	540,000
ワークショップ参加費	20,000
支援金	200,000
合　計	760,000

支出

項目	金額
出演料費	250,000
宿泊交通費	39,000
音響等経費	160,000
印刷製本費	145,000
使用賃借料費	88,000
通信費	10,000
消耗品費	68,000
合　計	760,000

想定する事業効果※プラン完了後に実績を更新するものとする

【定量的な効果】

プロの生演奏を体感してもらうことでジャズ愛好家が増える期待がもてる。気軽にワークショップに参加してもらうことで、楽器、音楽への興味やチャレンジ意欲を高める契機となる。次世代の音楽文化継承にも貢献できる。

【定性的な効果】

生演奏ならではの臨場感を体感することで、楽器練習や音楽活動への意欲向上につながる。また、演奏から受けた感動や驚きは、豊かな感性や想像力を育てるきっかけになり、地域文化の発展や若者の健全育成に寄与できる。コンサートを地域で創り上げていくことで地域活性化につながる。